

質疑応答

Q1. この会の趣旨は？

石川：コロナワクチン被害の実態を知ってもらうことで、被害者救済を進めること。

さらに、コロナワクチンの危険性を周知することでワクチン接種のみならず、コロナ対策の問題点を明らかにしたい

Q2. 今後も継続されるのか

石川：継続する。2回目は10月26日（土）14：00、3回目は12月15日（日）9：00からを予定している。会場は本日と同じ、高浜市いきいきホール。いずれかの会にCBCの大石邦彦氏を招待したい。

Q3. 愛知県の患者の会の会員数が全国平均よりも多い理由は？

神谷：愛知の人は他府県に比べて後遺症に理解を示す人が多いように思う。大石さんの影響は大きいと思う。

Q4. 自分の家族が虚血性腸炎に罹患し、その後膠原病になった。コロナワクチン接種後に膠原病になるメカニズムを教えて欲しい。

石川：人間の体の中には様々な抗体があるが、膠原病はその抗体を敵とみなして攻撃してしまうことにより色々な症状が出る病気である。コロナワクチンを接種することで余分な抗体が産生されるとそれを敵とみなして炎症が起きる、あるいはそれをきっかけとして免疫機能が狂ってしまって味方であるはずの抗体を敵とみなしてしまっていて炎症が起きるのかもしれない。しかし、コロナワクチンが原因であると断定できる検査法はないので、あくまでも状況証拠による判断にならざるを得ない。

神谷：検査法については色々な論文は出ている。自分も膠原病のような症状が出ているが、ワクチンが原因であろうがなかろうが、治療法は同じだと思っている。そしてどんな病気も同じだが、最終的には自分で治る力をつけなければならない。食事、運動、日光浴、サプリ等の総合的な対応が必要。自分は少しずつよくなっているのですが、ご家族もきっとよくなると思います。

Q5. 自分も後遺症に悩まされており、多数の医療機関で診察を受けたが、漢方薬、ビタミンの点滴とか色々治療法はあるようだが、結局決め手となる治療法には出会えていない。医師たち、とりわけ大学病院の医師たちにはもっと治療法の勉強をして欲しい。それと、我々のような患者がどこの病院に行けばいいか、分かるようにして欲しい。

石川：ビタミンDは有効だと思われるが、ビタミンCの大量点滴は腎障害の問題もあり、難しい。専門的な漢方医による処方があるようである。どこに行けばよいか困った場合にはまずは当院に来て欲しい。当院でできる範囲で対応し、できない場合はしかるべき病院を紹介する。

Q6. 自分の知り合いも某病院でコロナワクチンを接種した後に亡くなった。コロナワクチンによる被害がこれだけあるのだから、新聞に広告を掲載するなそして、ワクチンの危険性をもっと大々的に周知するべきではないのか？

神谷：メディアは本当にダメ。何度も情報は発信しているけど、ワクチンの有効性も言わないと上層部からOKが出ない。テレビ局で取り上げてくれるのはCBCと、神戸のサンテレビ、新聞では河北新聞（本社は仙台）だけ。ただ、NHKが先日「あさイチ」で取り上げてくれたし、その前にNHK福岡放送局でも取り上げてくれた。

石川：北海道医師会発行の「北海道医報」でもコロナワクチンのメディアの報道姿勢を批判する

論文が掲載された。また、小さなことだが次回の「刈谷医師会報」にも私の「コロナワクチン、秋接種への疑問」という論文が掲載されることになった。少しずつ変わってきている。

Q7. 日本脳炎、水痘等、子どもたちの他のワクチンは接種するべきか？

石川：余程の信念がない限りは接種した方がよい。ただ、インフルエンザワクチンの効果は不確かなので、打つべきか打たざるべきか、分からない。

神谷：コロナワクチン後遺症になった経験を踏まえると、他のワクチンも打たない方がいいと思う。

Q8. 自分も後遺症で悩んでいる。体のあちこちが痛くなる、とりわけ左の下腹部から鼠径部にかけてのしこり、痛みが気になる。色々と検査をしてもらっても異常はないと言われる。今は自分で指圧をして和らげているが、しばらくは改善傾向だったのが、最近になってまた少し悪化している。結局は自分で色々と工夫するしかないと思って頑張っているが、何かいい方法はないか？

石川：自分で頑張るしかないというのはおっしゃる通りだし、そのうえで何か薬の力による後押しが欲しいというのもよく分かる。繰り返しになるが、困ったらまずは当院に相談して欲しい。

Q9.ブレインフォグも免疫能の低下が原因か？

石川：コロナワクチン後遺症の原因は血管の障害、神経の障害、免疫の障害に大別されるが、ブレインフォグは神経の障害だと思われる。脳内でスパイク蛋白が悪さをして神経の伝達に障害をきたしているのではないか、だから免疫能の低下が原因とは言えないのではないか。

神谷：石川先生に反論するのは恐縮だが、ブレインフォグというのは脳細胞が炎症を起こしている状態である。免疫が上手く働かないために炎症が起きるのだから、免疫能の低下が原因だと思う。

石川：神谷さんが正しいです。(笑)

Q10. コロナワクチン接種を続けている医師たちはどういう理由で打っているのか？危険性を知らないのか、していても打っているのか、お金儲けがしたいのか？

石川：自分も3回目までは接種した。アルファ株、デルタ株までは恐ろしい病気という認識だった。コロナに感染した患者さんの往診もしたし、療養施設となっていた「東横イン」にも往診に行ったが、みなさんととても苦しそうだったし、自分としても「この患者さん、亡くなってしまうかも？」と思ったこともあった。自分自身も「死んでしまうんじゃないか？」と思ったこともあった。だから、あの当時は「早くコロナ禍が治まって欲しい」の一心だった。そんな状況だったから、ワクチンに期待した。政府からの情報、製薬会社からの情報、医師会からの情報を信じて接種した。でも、老人ホームでの3回接種後、体調不良者が続出し、死者も出たことをきっかけに「真の情報」を集めるようになり、「接種中止」という決断に至った。

他の医師が打ち続けている一番の理由は多数派に従う方が楽だから。少数派になると患者が減るんじゃないか、他の医師から白い目で見られるんじゃないか、ということに危惧しているのでは？

または、過去に何度も打ってきたので今更やめると自分の間違いを認めることになり、患者から責められるのが怖いのもかもしれない。もう一つは、真面目な医師は医師会推奨、製薬会社提供の講演会を一生懸命聴くので、ワクチン推奨の方向になびいてしまうのではないか。ワクチン接種が始まった当初は法外な報酬が得られることもあったが、今はそんなことはないのでお金が欲しくて、という理由では打っていないと思う。

「過ちを改めざることを過ちという」という孔子の言葉があるが、これはワクチン接種を続ける医師に限らず、政府だけでなく、日本全体に言えることではないか。一度決めたら改めない、という事が多すぎる。

Q6.